

大僧正本多日生師著

法華經自我偈講義

定價金貳拾錢
送料一部金貳錢

日蓮教學に重大なる病患あり、本尊の不鮮明と信仰の不純となり、或は萬有神教に等しく、或は庶物崇拜に墮り、或は縁祠迷信と異なるなし、法華に依經して真言宗のふんどしかつげる者、日蓮の門弟子にして天台の糟粕なむる者、滔々弊風をなして遂に怪むなし矣、此の痼種を除去せずんば永く宗風宣揚の機會を逸せん也。本佛釋尊の久遠實成と十方應現とを闡顯して本尊の統歸を示し、一心欲見佛の至信を勧め、良醫良藥の慈訓を垂れて、純正なる信仰を説くもの法華經壽量品なり、經文の明鏡を規準として日蓮上人の遺文を拜せんに、釋然として會通する事を得ん。

日蓮上人以後六百幾十年、本多日生師によりて初めて本佛釋尊の御徳は遺憾なく光顯せられたり、本尊に關し、信仰に關し、一切の疑悔は氷釋せられたり、日蓮上人と日生師、日生師が明治大正の代に日蓮主義宣揚の功勳は古今稀なるも、特に日蓮教學の上に加へたる犀利なる明解は、眞に道を求むる者の爲に日月の巨燈に齊しからんか。

本書は本多日生師によりて法華經自我偈全文を講義せられたるもの、必ず一本を購ふて精讀せざるべからず、敢て大方に薦むるものなり。

大正十三年四月二十八日立教開宗之日

統一編輯局同人

特價割引

施本宣傳用に利用せらるゝ人の爲に、一は普く多數の購讀に便せんが爲め、一は統一誌宣傳の廣告費投資の意味に於て、特價拾部金壹圓(送料共)にて御需めに應ず。但六月廿日迄に豫約申込を乞ふ。

發行所

名古屋市東區田代町城山

統一編輯局

電話長東五四八七番
振替名古屋一〇八一九番

目

法華經自我偈講義……………本多日生

次

日蓮主義より見たる無量義經……………井村日成
記事報導……………

第廿八年七月號

統

一

編

輯

局

日蓮主義より見たる無量義經

(第十五回)

井 村 日 威

昨年九月震災以來休職致して居りまして申譯が有りませんでしたが、讀者の御方々よりも編輯の方よりも度々の御督促で恐縮致しましたが、本月より稿を起して引續き掲載致します所定です。今迄の處は御教しを願ひます、從來本文を省略致して居りましたが、本經を御持ちで無い方が不便であると、の事故に、必要なる處は本文全體を掲げ、あまり必要の無い處は省略致す様に致したいと思ひます。

於是佛告大莊嚴菩薩、善哉善哉大善男子、能問如來如是甚深大乘微妙之義、……今世來世諸有衆生得成無上菩提。

(二八、六一—一九、一)

此より下は、第八段如來廣說分である、第七段の大衆重微分に對する如來の御答辯である、其中に先づ質問の要領を得たるを讚歎せられた、唯今の質問

は大乗微妙の深義を啓發するに就て最も大事な點である、此大事な點が了解出來れば、一切衆生の苦を抜く、眞實の大利益を與へ、今世來世の諸有衆生をして無上菩提を成就せしむるが故に、善哉善哉とお讚めに成つたのである。

善男子、我先道場菩提樹下端座六年、得成阿耨多羅三藐三菩提、以佛眼觀一切諸法不可宣說、所以者何、知諸衆生性欲不同、性欲不同種々說法、種々說法以方便力、四十餘年未顯眞實、是故衆生得道差別不得疾成無上菩提。

(一九、一—一九、六)

此一段は如來の説法に差別あるを明すのである、如來は中印度淨飯王の家に太子として生誕し給ふたが、人生の眞意義に就て疑を懐き、此を解決せんが爲めに、出家し求道せられた、當時の有數なる婆羅門の許を訪ふて、其教義を研究せられたが遂に満足することが出来ない、そこで自ら其思想を練つて、遂に菩提樹の下に於て正覺を成せられた、其思想を練られた時間を此經文に端座六年と云ふたのである、そこで其正覺の眼を以て世間を見ると、世間の思想は亦あまりに低級である、あまりに放縱である、斯様な低級で放縱なるものに、如來の證悟を説き聞かしても、到底受け入るゝことが出来ない、受入れざれば何の益にも立たない、益に立たない仕事は無意味になるから、寧ろ斯ふ云ふ人達を相手に教を説くことは止めやうと御考に爲つた、これを「不可宣説」

ここで種々御考慮の末に、方便の教、即ち衆生の考に幾分近寄つた教を與へて段々如來の證悟に近づくに導くことに相成つた、其結果は如來の教法が種々に分れた、相手が千差萬別の考を持つて居るから其を導くには種々異なる教法を與へて來た、斯様な譯で、如來成道以來四十餘年間の説法は、如來の眞意を遠ざかつた上に種々區々の分裂した教と爲つて衆生に與へられた、從つて衆生の得た利益も差別して一定はしない、如來の證悟を其儘に説かざれば無上菩提の佛の證悟に至ることも出来ない、中途に彷徨ふて居る形となつたのである、その事を説いた經文である、此御經文の四十餘年未顯眞實の御文は權教と實教との區別を最も明白に示されたので、古來此文を「權實の榜示」と云ふて、權教實教の境界標と云ふて居る、權教に依つて宗旨を立て、居る人

と此經文に説いたのである、其理由を説いて性欲不同なるが故にと云ふ、性欲とは一切衆生の過去の宿習現在の境遇に於て千差萬別、各自の意志は種々勝手な事を考へて居る、或ものは無暗に欲張る、或ものは威張つて計り居る、又愚痴ばいものもある様な譯で、其を細かく分ければ八萬四千の煩惱と云ふから種々雑多な思想を持つて居る、それを一つの道に纏めることは容易なことではない、如來は一旦不可宣説で、寧ろ何にも説かないで涅槃に入つて任舞はふかとお思召したが、さてよ、折角衆生濟度の爲に出現して居りながら、一言の説法も仕ないで涅槃に入つたんでは出現の目的は無くなる、一言なりとも説いて導かねばならぬとお思召して、思ひ返して、我の爲に説法を爲られた、然し如來の證悟其儘では其程度が違ひ境遇の違ふ點から直に受入れない、そ

々の一番に嫌がるお經文ではあるが、如來の直説であれば如何とも致し難いことである、ある横着な宗派では此經文の未顯眞實の文から逃げやうと考へて自分達の信する經文は、無量義經の後で説かれた坏と云ふが、それは胡摩化しに過ぎない、そこで權實二教の區別は斯様な譯であるが、元來如來化導の目的より出でた教なるが故に、其根本を異にするものではない、法華經に「一佛乘に於て分別して三と説く」と云はれた意味と同じで、此經には「無量義は一法より生ず」と説いた、根本は一法で、其一法より無量義と分裂して來たもの故、其根本に歸結することを忘れてはならぬ、其點が大事である、此經は其點を明了に會得せしむべく説いた、其根本を一法とし、其終局の目的を一法とするが故に、其中間に於ける分裂的教法と雖ども、充分仔細に其教法の内

容を吟味して行けば當然其結論を一にする譯合であるが、受くる方の力が其教の全體を會得出来ぬから其處に其得たる結果は分裂差別した結果を得る事になる、要するに其分裂せるは如來の方には無くして我々教を受くる側にあると云ふことを考へねばならぬそこが此から下にある水の譬なり、文字雖一而義各異と説かれてある所以である。

善男子、法譬如水解洗垢穢、若井若池、若江若河、溪渠、大海皆悉能洗諸有垢穢、其法水者亦復如是、能洗衆生諸煩惱。

(一九、六一—一九、末)

此は譬を擧げて法の勝劣を明す一段であるが、此文は其水の性は一なりと云ふ、教の根本は一なりと云ふ方の譬である、水には井の水、池の水、河の水、谷の水、大海の水と云ふ様に其場所には遠い目はあ

るが、水は一つで、何れの水でも垢穢を洗ふ體は一つであるが如くに、如來の教法も權教實教小乘大乘の區別はあつても、衆生の煩惱の垢穢を洗ふことに於ては同一の力あるものであると云ふて其目的は一である云ふことを明したのである。

善男子、水性是一、江河井池溪渠大海各々別異、其法性者亦復如是、洗除塵勞等無差別、三法四果二道不一。

(一九、末—二〇、二)

此文は前の譬に反して、水の性は一であるが、其力用が異ふと云ふことを明した文である、同じ水で共に垢穢を洗ふけれども、其洗ふ力が異ふ、其洗ふた結果が違ふ、小さな器にある水は充分に垢穢を落すことは出来ない、澤山な水程充分に垢穢が除れることは、我々の日常の實驗する處であるが、如來の教

も其の如く、其の教の根本は一つで、同じく衆生の煩惱の垢穢を除くには違ひないが、其除き方が違ふ、小乗教の井や池の水では見思の煩惱と云ふ極く粗雑な垢穢は除れるが、もつと精細な垢穢は除れない、大乘教の中でも權大乘の教では、見思の粗雑な煩惱の外に塵沙と云ふ精細な煩惱の垢穢が除れるが、も

そつと細かい無明と云ふ垢穢は除れない、實大乘の教では見思、塵沙の外に無明と云ふ煩惱の一番頑強な手強い垢穢が除かれる。一つ教であり、一の水ではあるが、實際上の効果から云ふと差別せる結果を顯はす次第である。依つて其結果より見れば、權教實教小乘大乘の區別は明白に存在して居る、故に教法の上に大小權實の差別は明確に認めねばならぬそこで今は質問の趣旨に依つて同じ様な御說法であり、同じ言葉であるのに、其教法が異ふと云フ仰る

善男子、水雖俱洗、而井非池、池非江河、溪渠非海、如如來世雄於法自在、所說諸法亦復如是、初中後說皆能洗除衆生煩惱、而初非中、而中非後、初中後說文辭雖一而義各異。

(二〇、二—二〇、五)

此一段は如來の教法に優劣あることを明したので如來の說法の法水は一であるけれども其功能に於て差異を生ずる、如來出世して法を説き給ふに、其所説の教法に於ては大體似た様な言葉(文辭雖一)で説いたけれども、其意義は淺深差別(而義各異)して居つた、是は如來の證悟の方から言へば文辭の一な

るが如く、其意義は深き意味を持つて居つたかは知らぬが、何分教を受ける側の知識程度が低いに依つて、如來の教を淺く解釋したことに成る、今一例を擧げて見ると、月は圓いと云ふ言葉は如何なる場合でも真理であるが、小兒が月が圓いと云ふことを聞いた時の解釋と、我々が月が圓いと云ふことを聞いた時の解釋とは異目がある、小供が聞けば、お盆の様に平面的の圓さと解するであらうし、我々は球の様に立体的に圓いと解釋するであらう、月は圓いと云ふ言葉は一つでも、其圓さを解釋する意味台が違ふて来る、此が此文に言ふ文字雖一面義各異である、人生無常と説いても、小乗でも大乘でも通じて人生無常とは言ふが、其無常が我々人生の根本迄をも無常と解して空無に歸するを目的とするか、無常は吾等の現實の方面に就いて言ふ言葉で、其實態に

無常ならざるものが存在すると解するかに於て、人生の根本解釋に非常な異目があるが、共に人生無常なりと言ふ言葉で言顯はせば、其言葉は一つでも、意義に於て大に差別が存在すると言はねばならぬ、其点を言はれたので、佛教各宗のものが間々言葉が同じであると言ふて、佛教は何れもこれも一絡だ杯言ふて居るのは、此經の文辭雖一面義各異の意義を了解せざるに依るが故である、初中後の説とは下の經文に詳しく説かれて居る。

月後れ「統一」誌減價廣告

五部 金五拾錢
拾貳部 金壹圓 郵稅共

ごし／＼利用して新讀者を勧誘して下さい、本年中に本誌發行部數更に倍加したい考です、發展の本誌を御後援下さい。

記 事

京都の大法會

本年の大法會は非常なる團體で、各宿舎は忽ち滿員の盛況、宗教の欲求、信念力の喚起する強いのを認めた。

四月十一日午後三時説教「願本の宗持」大津日文師。全夜講堂に於て大講演會、「開會の辭」金光布教師、「法華經に立脚した團體觀」野布教師、「教育と宗教」松本監督布教師、「佛法修行の正路」本多管長親下。聴衆滿堂、講演後本多親下著「國民精神の涵養」二百部を施本した。

十二日午前六時半説教、「樹樂百年の時」原

田村命布教師。午後三時説教「釋尊の大恩」本多管長親下。午後七時より講堂に於て大講演會を開演、「開會の辭」有田安道師、「人間苦の原因を探れて」兒玉布教師、「振作更張の時」長谷川布教師、「信仰の力」栗原布教師、「國民性の表現」笹川監督布教師、「開會の辭」萩原本山部長。右講演を了つて、天皇皇后兩陛下の萬歳を三唱。「涵養」七百部を施本す。

十三日午前六時半説教「教育の發達と宗教」能仁事一師。

第六部 監督布教日誌

文學士 武田顯龍

三月八日午後七時廣島市本願寺に於て、聴衆二百餘名、「立正安國と中正主義」縣郷託古田賴巳、「社會的美風と日蓮主義」武田監督布教師△三月九日午後一時吳市高等女學校に於

て、三女學校合併、聴衆七百餘名立錫の地なし。「開會の辭」大久保高女校長、「將來の女性と其覺悟」武田監督布教師、「御證書を拜して」佐藤海軍中將△三月九日午後一時吳市立

中學校に於て聴衆四百、「開會の辭」尾河内中學校長、「御證書を拜して」佐藤海軍中將、「將來の國民の覺悟」武田監督布教師△三月十日午後二時吳海軍軍需部にて聴衆四百、「開會の辭」及川海軍少佐、「民風作興の第一義」武田監督布教師△三月十日午後七時吳市教會所に於て聴衆二百餘、「開會の辭」田中宣止師。「正しき信仰」武田監督布教師△三月十一日午後七時吉田町蓮華寺に於て熱心なる聴衆二百餘名。「正しき信仰」富元布教師、「現代思潮と日蓮主義」武田監督布教師△三月十二日午後二時伊原村淨滿寺に於て伊原村主權師奉獻講演會聴衆二百餘名、「開會の辭」伊原村村長。「民風作興の第一義」武田監督布教師△三月十三日午後二時、伊原村高源寺にて聴衆百八十餘名、熱心なる信徒三里先きより集り来る。「開會の辭」山主長美明師。「日蓮聖人の信仰」武田監督布教師△三月十四日午後四時三隅了性院にて聴衆四十、「佛になる道」武田監督布教師△三月十四日午後八時三隅了性院にて聴衆百餘。「立正運動の急務」野布教師、「民風作興の第一義」武田監督布教師△三月十五日午後三時山口縣萩町妙蓮寺にて熱心なる研鑽會青年會員約四十名の爲に、宗教信念と道徳との

關係」武田監督布教師△三月十六日午前九時
 萩町妙蓮寺にて小供會員九十餘名の爲に、紀
 野夫人醍醐三郎今井松芳町事光師等有益な
 る講話ありて後、「心の光」武田監督布教師△
 三月十六日午後三時萩町妙蓮寺にて聽衆三百
 餘、「立正蓮華の巻物」紀野布教師、民風作興
 の第一義」武田監督布教師△三月十八日午後
 八時九州八幡市立正會にて聽衆百餘名、「一樹
 百果者人也」中原特命布教師「正信は力也」武
 田監督布教師△三月十九日午後一時至九時廿
 木太刀洗風空隊にて聽衆三百餘名、「開會の
 辭」坪田陸軍大尉、「國民の覺悟」武田監督
 教師△三月十九日午後七時福岡縣朝倉郡公會
 堂兼聖館にて聽衆三百餘名、「開會の辭」橋本
 治一君、「我は日本人也」中原特命布教師、民
 風作興の第一義」武田監督布教師△三月二十
 日午後二時博多市日蓮聖人銅像記念館にて妙
 蓮會主催、聽衆五百五十餘名、「開會の辭」山田
 日大教授、「正法護持」日蓮宗布教師、講師長尾
 等講師、「正信は力也」武田監督布教師、「所感」
 九大教授高木醫學博士△三月二十日午後八時
 久留米市商業會議所にて久留米天晴會主催聽
 衆三百餘名、「開會の辭」南島恒人君、「傳教の
 中正的觀察」中原特命布教師、「民風作興の第

一義」武田監督布教師△三月二十一日午後三
 時久留米市本榮寺にて聽衆百餘名、「開會の
 辭」中原特命布教師「力強く生きまじやう」武田
 監督布教師△三月二十一日午後七時久留米市
 本榮寺にて聽衆二百餘名、「開會の辭」中原特命
 布教師、「信は道の元」武田監督布教師△三月
 二十二日午後三時三池郡永永校にて聽衆二百
 五十餘名、「開會の辭」出津俊義師、「諸君捧讀」内
 田校長、「民風作興の第一義」武田監督布教師
 △三月二十二日午後八時半田市原武氏宅に
 て天晴會堂に教會所信徒主催聽衆七十餘名、
 「開會の辭」出津俊義師、「正信は力也」武田監
 督布教師△三月二十三日午後二時三池郡二川
 校にて在郷軍人會主催聽衆二十名、「開會の
 辭」出津俊義師、「民心作興の要訣」武田監督
 布教師△三月二十三日午後八時二川村渡瀬新
 興寺にて聽衆百五十餘名、「五種の懺悔」出津俊
 義師、「正信は力也」武田監督布教師△三月二十
 四日午後二時三池郡開小學校にて開村主催
 講演會聽衆二百五十餘名、「開會の辭」出津俊

日本國が凌辱さし辱し時

近畿北陸に偉聖日蓮を説く

「人打はり辱むとも法重ければ必ず弘まる
 べし、法とは正義である、正義は終に勝つと
 ならない、日蓮上人の「人打はり辱むとも法重
 なければ必ず弘まるべし」、正義は終に勝つとの
 叫びは、今の日本人に遺された強い一呼で
 はなからうか、私は日蓮上人によりて今の日
 本國を擁護すべく、日蓮上人に覺醒された第
 二第三の日本の柱を作るべく、北陸から近畿
 を巡教した。「國歩履難にして偉聖日蓮を憶
 ふ」と云ふ詩題を提げて。

日蓮上人は叫びられた。日本中舉つて日蓮上人
 に反對し、時の政權を以て一沙門を壓したの
 であつたが、然し唯だ一人の沙門の聲は時と
 共に益々光を増しつゝある。
 生きたこの大きな力は、やがて今の日本人
 に絶好の教訓でばなからうか。亞米利加は不
 法に日本を凌辱した、吾等を劣つた民族なり
 として排斥した、恰度日蓮上人が罵まれ、辱
 められ、虐げられたように。

五月廿五日越前教買町圓立寺に於て、聽衆
 約三百、能く解つた人達の粒揃いてあつた、信
 徒榮助氏が盡力して呉れた結果が、此地で
 は珍らしい盛會を來した事と思ふ。△同廿六
 日福井市妙蓮寺に於て、豪雨を冒して集る熱
 心なる男女百五十五△同廿七日今庄善勝寺に於
 て聽衆五十、何れも血の薄くような夜の法筵
 であつた。兒玉布教師が此地方は宣傳に參加
 して呉れた。

各地教信

日大和郡山町常光寺、同七日神戸市淡西俱樂
 部に於て具さに國際關係の論議と、人種的争
 鬪の慘劇とを説き、日蓮上人によりて遺され
 た大切な教訓を提示して、國民精神の覺醒
 を力説した、金光布教師と京藤布教師とが分
 擔して此運動に參加して呉れたのであつた。
 國友日記記

裁教報 去月武田監督布教師來秋に依つて
 妙蓮寺主管の立正社社務長支部、日蓮研鑽會
 立正青年會、滿國少年團の各團體は更に新詳
 味を發揮し、四月十九日紀野主幹の大阪講習
 會よりの版任を待ち、立正社社務會を開く、
 「三力の信」を紀野支部長、更に進め我軍の戰
 士「小高醫師△廿日立正青年會野外講演會、立
 正運動の巻物」紀野俊輔、我が進む途、福蘭三
 郎△五月六日日蓮研鑽會、「猶太福を論じて立
 正安國論に及ぶ」紀野俊輔△同十二日立正結
 社「母日蓮空若松峰、「吾が千の死に導かれ
 て」藤岡三郎、「六百六十四年前今日の立正大
 師を憶ふ」紀野俊輔、餘興筑前遊藝等ありて
 盛會△同十八日護國少年團野外運動會を菊が
 濱に開き、林岡教授の後各種の實技を行ひ、多
 數父兄の參觀ありて盛會。

かくして日本は凌まれて辱られたとせば、
 我等は我國を支持し擁護する力を確保せねば
 ならず、

面も彼は一切の準備を整へた上で不法を敢
 てしたようだ、北はアラスカから南はフヒー
 ラピンに至る、點在せる彼の屬領にはいつし
 が防備が施されてあつた、平和の聲に欺かれ
 て馬鹿な日本が優秀なる軍艦を廢棄した時、
 空中を征服して第二の黒船は襲來したのだ、
 遠くとも西の大陸から東の日本へ、空の航路
 は開かれて居る、そして先頭した三隻の飛行
 機の後には幾百幾千の敵機が雁の如くに亂れ
 飛んで居る、各々爆彈を積んで……東京も
 大阪も名古屋も瞬時に焦土と化する、解つた
 か……此時ターッッッは排日法に署名したの
 だ。

六月二日壹京都市久遠寺、夜本山妙蓮寺、同
 三日救光寺、夜本正寺で大に國論を喚起した
 △同四日新舞鶴町教會所に於て、此地は華府
 會議の爲に廢止された軍港の所在地なんだ、
 そして教會所の信徒中にも幾多の犠牲者を出
 して居る、聞く者も説く者も特に熱と力が籠
 つたのであつた△同五日大阪市空閑寺、同六
 義師、「民風作興の第一義」武田監督布教師△
 三月二十四日午後八時九州柳町妙蓮寺にて
 聽衆百餘名、「開會の辭」甚良善智師「人格完
 成への進路」中原特命布教師、「國民大懺悔の
 歌」武田監督布教師△三月二十五日午後二時
 三池郡三池小學校にて三池村主催觀音奉獻講
 演會聽衆五百餘名、「開會の辭」三池小學校長
 「民風作興の第一義」武田監督布教師△三月二
 十七日午後八時朝鮮釜山商業會議所にて天晴
 地明會主催、聽衆三百餘名、「日蓮主義の國家
 觀」横山天晴會長「國民自覺の歌」武田監督布
 教師△三月二十八日午後二時朝鮮釜山郵便局
 にて局員四百名の爲めに、「民風作興の要訣」
 武田監督布教師△三月二十八日午後八時朝鮮
 釜山天晴地明會にて聽衆五十餘名、「日蓮聖人
 の主義及信仰」武田監督布教師△同四月十
 五日午後三時京都府下水津町佛敎各宗深信會
 主催聽衆百餘名、「佛の教と信仰の力」武田文
 學士△四月十五日午後七時水津町妙蓮寺にて
 青年會の爲に、聽衆百五十餘名、「民風作興の
 第一義」武田文學士。

大阪堂開寺教報 四月二十二日立正結社
 談話會、社員諸氏の講習會に於ける感想演説

あり、頗る盛會を極めたり△四月二十八日立
 教團宗記念法要を修し、左の講演をなす「開
 會の辭 京藤山主」「立教開宗と現在の世相」三
 谷會善師。「萬が一も正義なきが、能井特命布
 教師。多數の聴衆に向ひ各師廣長舌を振ひ、多
 大の感動を興へられたり△五月十二日伊東法
 離經恩會を修し、久遠本佛の眞實の愛「京藤
 布教師。「日蓮主義と實生活」上田布教師。來
 會者一同法悦と感激に充たされて散會す。

總務部了圓寺教報 四月十七八日の兩日に
 涉り法界會を京藤山主師の下に執事な
 る法要を修し、左の講演をなす。「開會の辭」武
 山主。「思想の善導に就て」京藤布教師。「人道
 の根本」藤原部長。熱心なる求道者にてさし
 もに廣き本堂も立錫の地なく、熱烈なる大師
 子吼け聴者に強き反響と、深き印象を留した
 りき、尙餘興として文珠院松月氏の聖母に關
 する講演ありたり。

金澤布教宣傳 五月十七日午後八時於坂
 井氏宅。「法華行者の心得」本郷常太郎氏△五
 月十九日午後八時於三由氏宅。「如實道 蓮田
 純榮師△五月廿二日午後三時於本長寺。御本
 尊に就て 蓮田純榮師「信念成佛と唱題成佛」
 本郷常太郎氏△五月廿六日午後八時於本長寺
 天晴會講演。法華經講義(櫻)蓮田純榮師。「
 宗教と政治」本郷常太郎氏△五月廿八日午後
 三時於高岡市。本化顯正會主催。開宗紀念講演
 「開宗唱題の意義」本郷常太郎氏。聽衆二百餘
 名△五月廿八日午後三時於本行寺。權教と實

教」石橋會章師。
千葉縣三教區布教團活動 一月八日
 法泉寺に例會を開く、役員改選並に諸役の協
 議をなす。主任木村、補任竹内、會計長岡に當
 選。團員一同教區内各寺に於ける布教講演等
 に極力應援する外、毎月數回茂原町に於て路
 傍傳道に要を履らす、又本報編纂の研究にい
 ちしめり△四月廿四日道路布教、出席者は木
 村、長岡、山本、竹内、藤江、岡元、山田にて、文
 化の紹復、國力の振興は一に國民精神振作に
 あるを力説したり、此日新聞員藤江君加はる
 あり、新聞員山田君の來り會するありて一層
 盛況なりき。

三教區光明寺報 一月十二日「復興第一
 年」木村、廿六日、村內寺院一同にて御成婚祝
 賀大法要を光明寺に當む、村長校長等を招く、
 法要には導師祝詞文を拜讀し、莊嚴に修し終
 りて講演「道統一系の尊嚴」木村。引續き研究
 會講話、「窮行第一」山本。修養と信解「長岡。
 經講義」木村△二月一日研究例會。「法華
 經講義」木村△十五日授受會。釋尊の大恩△
 十六日味庄婦人會「凡夫の心」木村。學校と家
 庭「栗山教師△廿八日開山忌、長者獅子」木村
 △三月一日「如來如實知見」戸谷。「法華經講
 義」木村。一度災に就ての感想「秋葉△十三日
 「抄判一語」木村△十九日「佛陀の大德」木村△
 廿一日廣嚴寺にて「信解品大觀」木村△廿四日
 本泉寺にて「開經上人」木村。「御經に就て」戸

谷△廿七日長岡寺にて「晋山を祝して」木村。
 「日蓮聖人に學ばん」栗原。
前ノ内常覺寺報 四月六日午後常覺寺に
 於て婦人會。「節句の時も題目」中嶋元道師△
 十五日夜常覺寺に於て題目講。「偉大なる女の
 力」中嶋元道師△五月十一日午前常覺寺に於
 て子供會。釋尊降誕會花まつり。我等のお父
 上様である「中嶋元道師。樂典對話福引等△十
 一日午後常覺寺に於て釋尊降誕會「主師親の
 拜尊」中嶋元道師△十四日夜常覺寺に於て題
 目講「布教の門出に際しての態度」中嶋元道師
羽前教報 四月五日金寶藏寺にて釋尊御
 降誕會後修後小兒の爲め御齋△十九日金寶
 野友五郎宅にて「本尊、村田義本△二十一日吉
 島村博野源之助宅にて「佛教と靈教村田義本
 △五月四日金寶藏寺にて少年會

日蓮主義の新しいフィルム
 京都の日蓮主義宣傳活動寫真株式會社で昨年
 一月以來製作に着手して居つた。
 映畫「釋尊」(九)

(八)真第九十五代後醍醐天皇の第三皇子、大塔
 宮義良親王の御遺子にして父宮の怨に報ふべ
 く、母公南の御方と共に足利尊氏直義の兄弟
 に狼狽し後に京都本願寺日輪上人の法子とな
 り、父宮の英靈を慰むべく、鎌倉に傍山妙
 法寺。創め給ひ、妙法無量壽上人御事)
 は頃日漸く完成し來七月六日の兩日京都市
 公會堂に於て封切會を開儀、以後引續例の如
 く全國を巡覽する。

廣告

日蓮宗法衣専門

諸種の準備が整ひましたから御注
 文品に就ては懇切丁寧に而も廉價
 で勉強いたし多年の御愛顧に酬る
 たう存じますどうぞ御用命を願ひ
 ます

東京市赤坂區一ツ木町八十六番地

柏屋 中山喜太郎

(市電)豊川稻荷前

廣告料値上げ

發行部数は激増しました、關東震災の爲に印刷が名古屋に移つてから丁度二倍になりました。で、廣告料を値上げします。

一頁金拾五圓 半頁金九圓 前納の事
 表紙一頁金貳拾圓 四分一頁金五圓

統一定價	
一冊	金貳拾錢 送料五厘
半冊	金壹圓貳拾錢 送料共
一ヶ月	金貳圓貳拾錢 送料共

大正十三年六月十七日印刷納本
 大正十三年七月一日發行 第三百五十二號

不許複製

編輯兼 國友 日斌
 發行人 鈴木 日雄
 印刷所 名古屋市中區千種町字五反田五二番地
 東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地
 東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地

發行所 統一行社
 編輯所 統一行社
 編輯局 統一行社
 名古屋市中區區千種町字五反田五二番地
 振替東京五一〇七一番
 電話名古屋東五〇八七番
 振替名古屋一〇八一九番

大僧正本多日生師著

法華經自我偈講義

定價金貳拾錢
送料一部金貳錢

(統一誌編輯部の依頼のもの送料一部
金五厘、但し申込の郵指定を乞ふ)

日蓮教學に重大なる病患あり、本尊の不鮮明と信仰の不純となり、或は萬有神教に等しく、或は庶物崇拜に墮り、或は姦祠迷信と異なるなし、法華に依經して眞言宗のふんごしかつげる者、日蓮の門弟子にして天台の精粕なむる者、滔々弊風をなして遂に怪むなし矣、此の痼種を除去せずんば永く宗風宣揚の機會を逸せん也。本佛釋尊の久遠實成と十方應現とを闡顯して本尊の統歸を示し、一心欲見佛の至信を勸め、良醫良藥の慈訓を垂れて、純正なる信仰を説くもの法華經壽量品なり、經文の明鏡を規準として日蓮上人の遺文を拜せんに、釋然として會通する事を得ん。

日蓮上人以後六百幾十年、本多日生師によりて初めて本佛釋尊の御徳は遺憾なく光顯せられたり、本尊に關し、信仰に關し、一切の疑悔は氷釋せられたり、日蓮上人と日生師、日生師が明治大正の代に日蓮主義宣揚の功勳は古今稀なるも、特に日蓮教學の上に加へたる犀利なる明解は、眞に道を求むる者の爲に日月の巨燿に齊しからんか。

本書は本多日生師によりて法華經自我偈全文を講義せられたるもの、必ず一本を購ふて精讀せざるべからず、敢て大方に薦むるものなり。

大正十三年春立教開宗之日

統一編輯局同人

特價引割

施本宣傳用に利用せらるゝ人の爲に、一は普く多數の購讀に使せんが爲め、一は統一誌宣傳の廣
告費投資の意味に於て、特價拾部金壹圓(送料共)にて御雷めに應じます。

發行所

統一編輯局

名古屋市東區田代町城山

電話長東五四八七番
振替名古屋一〇八一九番

表紙裏に簡單なる施本の總旨(例者、爲
何某家先祖代々菩提、施王何之誰)印刷
御希望の方には五百部迄毎に金壹圓の割
で御雷めに應じます。

目次

此際に於る吾人の覺悟……………	佐藤鐵太郎
日蓮主義より見たる無量義經……………	井村日成
罷睡錄……………	山根日東
我等以何に進べきか……………	森川日修
記事報導……………	

第廿八年八月號

統一

